

実際の指導を具体化したりするなどして、自ら考え、表現する授業の充実を図ることができた。

しかし、前述のように、児童生徒の思考・判断の過程や表現したものを適切に評価することについては課題が残っている。例えば、思考・判断した結果として表現される児童生徒の記述等を見取る際、教師が思考・判断し、表現する内容に含まれるべき要素や基準を明確にしていない場合があり、表出されたそれぞれの記述等の比較により評価をしているといった課題が挙げられる。そこで、指導と評価は一体であるという観点から、児童生徒が思考・判断したものを表現する一連の学習活動において、的確な評価と併せて、効果的な指導にも生かすことができるよう、含まれるべき要素や見取りの基準をあらかじめ明確にしておくことが必要である。

第2章 思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態

1 実態調査

(1) 目的

思考力・判断力・表現力を育成する取組について、県内各学校の状況を把握する。

(2) 概要

1	調査名	思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する実態調査
2	調査対象	県内全公立小・中・高等学校・特別支援学校（鹿児島大学教育学部附属小・中・特別支援学校を含む）
3	回答状況	小学校569校、中学校246校、高等学校76校、特別支援学校16校（回答率90.9%）
4	調査期間	平成23年10月21日～11月8日
5	調査方法	質問紙調査
6	調査内容	各学校・教科等における思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の状況
7	回答方法	選択肢形式（一部、自由記述）

2 各学校の実態

(1) 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の状況

思考力・判断力・表現力の育成を図る取組として、「教科の特性を踏まえて言語活動に取り組んでいる」のは、全校種の半数以上である。しかし、「単元の指導計画に位置付け、意図的・計画的に取り組んでいる」や「評価と関連付けて取り組んでいる」割合は、30～40%である。目標に沿って意図的・計画的な言語活動を設定する必要がある（図2）。

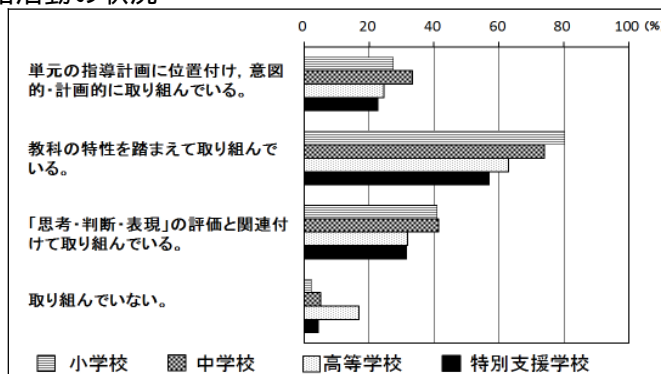


図2 言語活動の充実に関する取組状況（複数回答）

(2) 「思考・判断・表現」の評価の状況

「思考・判断・表現」を見取る評価の資料としては、記述式のテスト、授業中のノートやワークシートを挙げているのが全校種において最も多く、思考の結果を書いて表現したものから見取っていることが分かる。小学校、特別支援学校においては、児童生徒の発言を評価の対象としている割合が高い（図3）。

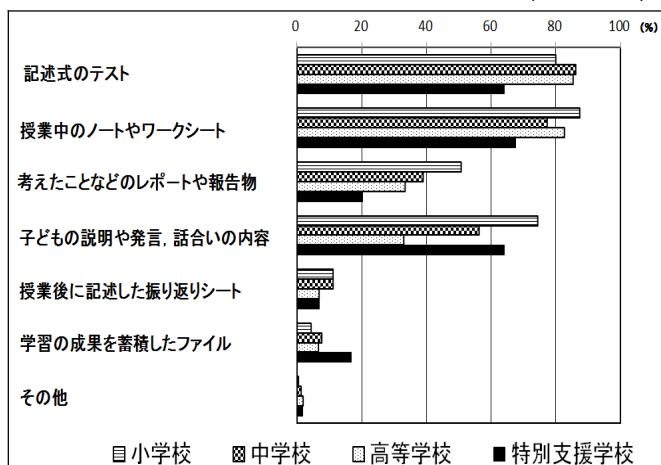


図3 「思考・判断・表現」の評価の資料（複数回答）

「思考・判断・表現」を見取る評価において、「十分満足できる」「おおむね満足できる」状況等を判断するに当たり、評価規準を基にしているのは、小学校、高等学校、特別支援学校が多い。判断するための基準を定めているのは、中学校では約半数であり、その他の校種においては、20～40%である（図4）。

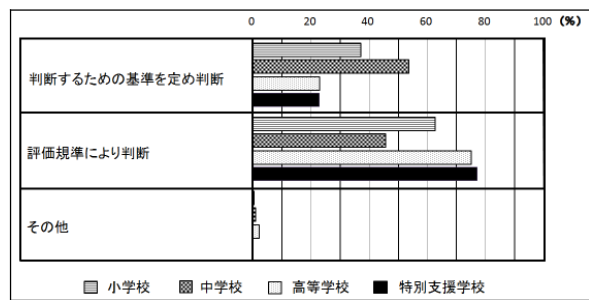


図4 「思考・判断・表現」の評価の判断

(3) 考察

以上の選択肢形式の調査集計結果及び各学校の評価等に関する自由記述から、課題及び研究の方向性を以下のようにまとめた。

「思考・判断・表現」の評価を難しいと感じている割合が高く、目標に到達したかを判断する基準が明確でないことから、評価規準に照らして、判断する基準を明らかにする必要がある。

言語活動の質的向上を図るために、評価規準に基づく基準を明確にし、指導の改善を図る必要がある。

第3章 「判断基準」の設定による評価の明確化と指導の充実

1 「思考・判断・表現」の評価

(1) 言語活動における評価の資料と評価の対象

基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力は、言語活動を通して育成される能力であることから、教科等の内容に即して思考・判断したことを表現させながら、評価規準に照らして評価することが重要である。

具体的には、単に文章、図や表に整理して記録するという表面的な活動の評価ではなく、自ら取り組む課題を多面的・多角的に考察しているか、観察、実験の分析・解釈を通して、規則性を見いだしているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら、教科等の学習内容等に即して思考・判断したことを記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を通して評価することが必要である。表2は、児童生徒が思考・判断したことを表現する学習活動において、評価の資料としてよく取り上げられるものや評価の対象として考えられるものを、例としてまとめたものである。

表2 「思考・判断・表現」の評価の資料と対象の例

評価の資料(例)	評価の対象(例)
ノート, ワークシート	・ 学習場面に応じた課題の考察や思考の整理, 効果的な表現形式等に関する記述など
自己評価	・ 言語活動における児童生徒の工夫や思考過程に関する記述(振り返りシート)
発表, 実演	・ 口頭発表における発言(話し合い活動, ディベート, スピーチなど) ・ 面接での発言(インタビューテストなど)
作品	・ テーマに沿った文章(感想文, 小論文, レポートなど) ・ 情報の整理, 分析(図表, グラフなど)
記述式問題(評価問題)	・ 「事実」についての記述, 「方法」についての記述, 「理由」についての記述, 「意見」についての記述 など